

会報

◇史学会総会

奈良大学史学会の第四回総会は五月三十一日(土)六〇一教室で行なわれた。阿部顯介学生委員司会のもと、一九八五年度の事業、会計、会計監査の各報告が滞りなく行なわれた。ついで、一九八六年度の役員人事案、事業計画案〔奈良史学〕発行、会報発行、現地見学会、卒論中間報告会、学内の教員による講演会等〕と、それに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。一九八六年度の役員はつぎのとおり。

▽会長 堀内一徳 ▽副会長 菅野 正

▽教員委員 松山 宏・水野柳太郎(監事) 鎌田道隆

(編集) 青木芳夫・森田憲司(庶務) 明石岩雄(会計)

▽学生委員 山田浩之(代表) 葉 敦子・中村真沙美・

正多孝幸・普川佳明・大東 仁・西山真弓・中原 康・桃

木雅代・角 洋介・津田真希・福田祐子・長谷川 清(以

上総務) 斎藤智美・江見信彦・守田勝豊・山口富生・勝

又秀行・高垣直史・天草千晶・林 公子・山田友香子(以

上編集) 山下尚幸・広瀬 毅・大石英幸・西川輝之・外

山千春・垣東充生・阿部顯介・田村 充・中越本子(以上
広報)

◇講演会

五月三十一日(土)、史学会総会にひきつづき、奈良大学
史学科・史学会共催による特別講義が、例年どおり左記の
ように行なわれた。

京都大学文学部教授 越智武臣氏

英国初渡航の日本人

京都大学工学部教授 西川幸治氏

地域文化財の保存修景計画

——歴史的環境の保存と法則——

両先生による講演は、長年の研究の一端を批瀝されたも
ので、他学科からの聴講もあり、六〇一教室がほぼ満席と
なる盛況であった。

◇卒論中間報告会

十月十一日、十八日の午後一時から、卒論中間報告会が
六〇一教室において行なわれた。今年度で、この会も三回
目を向かえ、今回はすべてのゼミから報告者が出ていただ
いた。十一日、十八日、両日とも七〇名以上の、熱心な学
生が集まり、熱のこもった報告・討論が行なわれた。

報告者と論題は次の通りである。

十一日

高田吉洋 「十字軍の変遷」

吉田泰弘 「高麗末・朝鮮初期における倭寇懐柔政策」

矢野昌子 「奈良時代における八幡神」

岩谷智樹 「中世武士の生活」

十八日

松原康二 「マレ・ノストルム（われらの海）」

鈴木正男 「明朝初期の文臣官僚について」

斎藤智美 「墨描人面土器について」

山下英子 「正徳期の『諸事日記』からみた都市・京都」

—— 冢出人について—— 考察を加えて ——

渡辺英明 「戦後ヨーロッパの国際統合について」

大東 仁 「仏教者の戦時下抵抗」

◇現地見学会

現地見学会は今年度で三回目を迎えた。今回は、我々が身近に感じている奈良時代の奈良というものを、もう一度学問的な目でたしかめようという目的で、奈良時代創建の東大寺・春日大社の見学会が企画され、十一月十五日（土）に実施された。近鉄奈良駅行基像前に午後一時二十分に集

合した約四十名の参加者は、まず登大路を上り東大寺へ向った。南大門から見学をはじめ、そのあと西塔跡・戒壇院を見学。西塔跡は初めて訪れた人が多く、学生委員からの説明に耳を傾けていた。戒壇院では、特別講師としておよびした本学客員教授堀池春峰先生に詳しい説明をしていた。熱心に質問をする学生の姿がみられた。次いで大仏殿に入り、堀池先生の案内で蓮弁を見せていただく。いつもと違う大仏の姿に皆驚いているようであった。その後、鐘楼・法華堂を見学し、若草山の麓を通り春日大社を見学した。春日大社では本学助教笠置侃一先生と権官司の八木さんに説明していただいた。また、八木さんの案内で、本殿の前まで行き、公式参拝を行なった。春日大社を出る頃は五時半をすぎ、もう辺りはまっ暗であったが、最後まで参加者は熱心に見学していた。

◇「史学会会報」発行

史学会の活動の普及、及び史学科教員と学生の親睦を深めることを目的として一九八五年度の創刊号、第二号に引き続き、一九八六年度は、第三、四、五号を発行した。（一九八七年一月に第六号発行予定）主な記事は史学会行事の案内、「先生紹介」「ゼミ紹介」の連載、教員と学生のこ

ラム等である。なお、本年度より卒業生会員にも「奈良史学」と一括して配送することになった。

◇史学科第一回中国研修旅行

奈良大学史学科では、三月三十日から四月六日まで、第一回中国研修旅行を行なった。二九名の学生会員が参加し、菅野正・鎌田道隆・森田憲司の三教員の引率のもと、七泊八日の日程で多くの史跡を見学して、研修の実を上げたが、日程は次の通り。

三月三〇日 上海（上海博物館他）、蘇州泊

三月三一日 蘇州（虎丘、大運河、北塔）蘇州泊

四月一日 蘇州（拙政園）、南京泊

四月二日 南京（中華門、太平天国歴史博物館、南京博物院）、夜行列車で北京へ

四月三日 北京（歴史博物館、故宮）、北京泊

四月四日 北京（居庸関、万里の長城）、北京泊

四月五日 北京（天壇、雍和宮）、上海泊

四月六日 上海（南京路）から大阪へ

◇会員動向

○青木考夫氏（西洋近現代史担当）は、七月十四日から四十余日、二重言語教育の研究のために、ペルー、ポリビア

を調査旅行した。

○松山 宏氏（日本中世史担当）は八月十七日から二週間トルコを旅行した。アンカラ博物館をはじめ、キャラバンセライ（シルクロードの隊商宿）を見て日本の馬借宿を想うなど、多くの遺跡を見学した。

○森田憲司氏（東洋近代史担当）は、七月十二日から二十一日まで、中国の北京・瀋陽・山海関・北戴河の諸都市を訪問し、戦前における日本人関係の史蹟の参観、文献の収集などを行なった。

○守山記生氏（西洋中・近世史担当）は、八月十三日から二十六日まで、西洋中世都市の研究のためにベルギー、北東フランスの諸都市で現地調査を行なった。

昭和六十一年史学科卒業論文

〔考古〕

大阪湾沿岸漁業の考古学的研究

池田 毅

― 弥生時代の漁撈について ―

しめなわの研究

上田 千穂

古代大刀の考古学的研究

小川真木子

山岳寺院の考古学的研究

酒井 健次

石燈籠の考古学的研究

西日本土偶の研究

古代製塩の研究

—紀伊半島西岸域における土器製塩について—

大和秋篠古墓の研究

六地藏の研究

石棺仏の研究

—加古川流域・加古川市における石棺の石棺仏—

〔日本史〕

律令制国司の成立について

「不改常典」について

藤原京における一考察

—藤原京の京城と宮城の移転を中心として—

律令制下の氏族と官職

古代後宮における貴族女性

紫微中台の一研究

—文書に見られる活動と職掌—

古代宮都考

朝集使に関する一考察

中瀬真由美

細川美千子

益田 雅司

守屋 薫

山口 昌道

山本 慎子

伊東方記子

木村 俊和

後藤 正晴

小林 清

菅野 妙美

杉森 節子

鈴木 景二

高宮真由美

大宰府の西海道支配について

—中央との関係をふまえて—

百濟王氏に関する一考察

—「百濟王三松氏系図」の史料価値について—

古代の陰陽寮について

—律令下級官司と天皇権力との関係に関する素描—

「知太政官事」について

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

畿内における地頭勢力の消長

—摂津国の地頭を中心に—

南朝の天皇について

—後醍醐天皇—

南北朝動乱期に生きた武将群

山名氏と但馬の国衆について

室町中期の徳政について

—閩所一揆を中心に—

中世における周防・長門国の守護勢力

畿内の大土一揆

—享元年の大土一揆と土二揆研究史—

中村 隆志

畑野 亮一

福本 仁志

土居 満義

上田 香

梅原 慎一

児島 陽子

近藤 義明

神藤 昌子

末広 尚美

高橋 浩二

中世瀬戸内海における海上交通について

—兵庫北関を中心に—

塚本 師仁

鎌倉御家人の群像

辻田 淑子

近江国堅田の都市構造について

寺川 滋

—特にそこに住む住人を観点にして—

信濃守護と国人

中原 美保

—小笠原分国支配について—

平賀氏について

中山 敦子

—東国御家人西遷の一類型—

小早川氏と氏寺

名賀 元子

播磨守護赤松氏の領国支配の展開

永田 和久

—室町幕府専制下における赤松氏の領国支配—

南北朝争乱に賭けた武将達

鍋屋 浩

中世京都の声聞師に関する一考察

原田 敬久

遊行念仏者一編

平沼 正代

—信濃国における布教を中心に—

源 実朝

藤原 千景

—北条氏及び後鳥羽との関係を中心に—

中世大和の商業活動

安田 史

—座支配の要質—

九州南北朝史における菊池氏の動向

山本 和男

—広福寺文書を中心にして—

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

近世封建社会における藩校の意義について

阿部 敬生

—伊予宇和島藩明倫館における教学—

元禄・宝永期における出版と演劇

猪原 浩正

—役者評判記にみる出版大衆化の一面—

近世封建社会における差別の一考察

長田 繁昭

松下村塾の歴史的意義について

加藤 信彦

幕末における村役人・豪農と村落

小原 浩美

—村落の荒廃と更生対策、官負定雄を中心として—

近世城郭の政庁的意義について

篠原 正治

江戸中後期の家訓と商人意識

中野 彰宏

『河内屋可正旧記』を通して見た近世農民意識

冬野雄一郎

海保青陵の思想像

壬生 佳延

近世中・後期社会と「健康観」の形成過程

山下 淳子

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

「支那保全論」にみる日本人の中国観

明石 佳子

—大隈重信の「支那保全論」を中心に—

日本における近代的生命保険業の確立

出井 秀幸

一九五〇年代末の中共貿易崩壊と、我國の対米従属

大原 章男

徳島県の民権結社「自助社」について

川口 洋

辛亥革命をめぐる社会的背景

萩原真理子

幣原外交失敗の要因

楠谷 幸次

— インテリ層への革命思想の普及とその理論、実践 —

明治三〇年代における女性の社会的地位について

櫻井 好美

〔西洋史〕

古代ギリシャ重装歩兵軍制について

新井 毅

明治初期に於ける出版行政に関する考察

佐土 孝男

— 重装歩兵成立要因に対する考察 —

伊藤 茂

戦時動員体制と民衆思想

獅々堀啓子

— モスクにおける装飾のもつ意味 —

奥山 謙道

日米交渉決裂の歴史的背景

田中 伸明

ソクラテスとギリシア民主制について

竹内由美子

大正新教育の歴史的意義について

豊福 孝

ローマ帝国へのキリスト教の浸透

前山 智子

— 奈良女子高等師範学校附属小学校における教育活動を例として —

能登 敦

— 迫害から公認へ —

増田 猛

第一次大戦期の労働運動の展開と米騒動

濱田 京子

— 貨幣経済の衰退 —

望月 一志

〔東洋史〕

モンゴル帝国の成立過程

松下 哲也

後期ローマ帝国の国家と社会について

横田 浩

— 特にモンゴル高原の統一まで —

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

末期プロトマイオス王朝と共和制ローマの交渉について

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ 石塚 忠久

イタリヤ中世都市国家の形成

フランス革命期及びその前後におけるフランス法制史

フランスにおける宗教戦争

エリザベス一世の外交について

カルヴァンの宗教改革

バルバリア海賊の変遷

☆ ☆ ☆

キユーバ独立とアメリカ合衆国

イギリスの対ドイツ宥和政策

—ネヴィル・チェンバレンの外交—

インカ帝国について

—帝国拡張期における第8代皇帝ピラコ

チャ・インカと第9代皇帝パチャクテ

ヒトラー政権の成立

—社会的背景と支持基盤—

メキシコ革命の原因について

—モレロス州におけるアシエンダと農民の關係から考える—

尾田 伸夫

龜田 昌樹

北田 孝明

中西 順子

名倉ますえ

浜本 有子

☆

小野 幸子

谷川 幸宏

辻中 真

三上 光

峯林 妙子

受贈雑誌及び圖書(自一九八五年十一月至一九八六年十月)

十三塚—実測調査・考察編—(神奈川大学日本常民文化研究所調査報告第十集)

立命館史学(立命館史学会)第六号

民具マンスリー(神奈川大学日本常民文化研究所)第一八

巻第六〇—二二号、八号附録、第一九卷一—六号

モンゴル研究(日本モンゴル学会)第一六号

史脚(日本女子大学史学会)第二六号

花園史学(花園大学史学会)第五号

中国水利史研究(中国水利史研究会)第七・八・一二・一

三・一四・一五号

信大史学(信大史学会)第十号

上智史学(上智大学史学会)第三〇号

専修史学(専修大学歴史学会)第一七号

千葉史学(千葉歴史学会)第七・八号

富士論叢(富士短期大学学術研究会)第三〇巻第二号、第

三十一巻第一号

帝京史学(帝京大学史学科)第一号

京都大学 国史研究室所蔵一乗院文書(抄)(京都大学文学

部国史研究室)

立教日本史論集(立教大学日本史研究会)第三号

広島大学東洋史研究室報告(広島大学文学部東洋史談話

会)第七号

アジア・アフリカ言語文化研究(東京外国語大学アシア・

アフリカ言語文化研究所)第三〇・三一号

弘前大学国史研究(弘前大学国史研究会)第七六〇八〇号

歴史(東北史学会)第六五・六六輯

アジア研究所紀要(亜細亜大学アジア研究所)第一二二号

西洋史学報(広島大学西洋史学研究会)第一二二号

西洋史論叢(早稲田大学西洋史研究会)第七号

スペイン史研究(スペイン史学会)第三号

香川史学(香川歴史学会)第三一〇一四号

鹿大史学(鹿児島大学法文学部史学地理学教室)第三三三号

愛知大学文学論叢)第八〇・八一輯

鷹陵史学(仏教大学歴史研究所)第一〇号

アカデミア 人文・社会科学編(南山大学)第四三三号

伊丹教育史料(伊丹資料叢書七、伊丹市役所)

地域研究いたみ(伊丹市立博物館)第一五号

東海史学(東海大学史学会)第二〇号

史叢(日本大学史学会)第三六・三七号

史学(三田史学会)第五五卷第二〇四号、第五六卷第一

二号

中央史学(中央史学会)第九号

熊本史学(熊本史学会)第六二・六三号

双文(群馬県立文書館)第三号

三井文庫論叢 第一九号

寧楽史苑(奈良女子大学史学会)第三二二号

日本仏教史学(日本仏教史学会)第二〇号

岡崎市史研究(岡崎市史編纂委員会)第八号

史観(早稲田大学史学会)第一一四冊

竜谷史壇(竜谷大学史学会)第八七・八八号

仏教美術における「インド風」について―彫刻を中心に―

(仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書第十四

冊)

橘女子大学研究紀要 第一二二号

キリスト教史学(キリスト教史学会)第三九号

群馬大学附属図書館所蔵新田文庫資料集一(群馬大学附属

図書館)

鳴門教育大学研究紀要(人文・社会科学編)第一卷

横浜商大論集(横浜商科大学學術研究会)第一八卷第一・

二号、第一九卷第一・二号

東洋史苑(竜谷大学東洋史学研究会)第二六・二七号

白山史学(白山史学会)第二二号

東洋大学文学部紀要第三九集 史学科篇Ⅱ

史苑(立教大学史学会)第四五卷第一号

日本海文化(金沢大学文学部日本海文化研究室)第一〇一

二号

金沢大学北アジア史関係ロシア語図書目録(金沢大学文学

部東洋史学研究室・日本海文化研究室)

金沢大学所蔵北・中央アジア史関係図書目録(金沢大学文

学部東洋史学研究室・日本海文化研究室)

本派本願寺金沢別院沿革史(金沢大学文学部内日本海文化

研究室)

明代史研究(明代史研究会)第一四号

日本思想史研究(東北大学文学部日本思想史学研究室)第

一八号

兵庫県の歴史(兵庫県史編集専門委員会)第二二号

年報中世史研究(中世史研究会)第一一号

ふびと(三重大学歴史教室・同研究会)第四三三号

史窓(京都女子大学史学会)第四三三号

神女大史学(神戸女子大学史学会)第四号

皇学館史学(皇学館大学史学会)創刊号

韓(韓国研究院)第一〇二・一〇三号

神戸大学史学年報(神戸大学史学会)創刊号

東海地方の近代交通形態と地域構造の特質に関する基

礎的研究(研究代表者 原秀三郎)

法政史学(法政大学史学会)第三八号

京都市歴史資料館紀要 第三号

宇大史学(宇都宮大学史学会)第五号

歴史人類(筑波大学歴史・人類系)第一四号

海南史学(高知海南史学会)第二四号

法政史論(法政大学大学院日本史学会)第一一〇三三

お茶の水史学(お茶の水大学読史会)第二九号

徳川林政史研究所研究紀要(徳川黎明会)昭和六〇年度

群馬県立文書館収蔵文書目録4 利根・沼地区諸家文書(1)

(群馬県立文書館)

聖心女子大学論叢 第六七集

中国中日関係史研究会会刊(中国中日関係史研究会)一九

八六年第二期